

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 					<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施結果、その他指標の結果について整理 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自己評価</th></tr> <tr> <th>評価日</th><th>平成28年3月8日</th></tr> <tr> <th>評価者・組織</th><th>学校評価委員会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分析(成果と課題)</td><td>自己評価に対する改善策</td></tr> </tbody> </table>	自己評価		評価日	平成28年3月8日	評価者・組織	学校評価委員会	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学校関係者評価</th></tr> <tr> <th>評価日</th><th>平成28年3月16日</th></tr> <tr> <th>評価者(いずれかに○)</th><th>学校運営協議会 学校評議員</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係者評価による意見</td><td>学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策</td></tr> </tbody> </table>	学校関係者評価		評価日	平成28年3月16日	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
自己評価																							
評価日	平成28年3月8日																						
評価者・組織	学校評価委員会																						
分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策																						
学校関係者評価																							
評価日	平成28年3月16日																						
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員																						
学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策																						
1	確かな学力	おもいや考えを表現する力 読書活動の充実 家庭学習の習慣化	掲示板での言葉の広場や各教科での言語活動のさらなる充実 朝読書の充実 読み聞かせボランティア 読書100冊の定着 学校便り等による啓発	話す・聞く話型の統一。 ・進んで発表している。 ・朝読書や読み聞かせを通して読書の楽しさを味わっている。 ・時間を決めて勉強をしている。	「そう思う」児童・保護者の割合は83%(前期比+10ポイント) 「できている」児童・保護者の割合は90%(前期比+3ポイント) 「そう思う」児童・保護者の割合は72%(前期比+4ポイント)	⇒ 教職員は「よく分かる板書」「ノート指導」「掲示物の活用」の実現度が95%を超える評価となった。90%の児童が「勉強はよく分かる」、83%の保護者が「学習内容を理解している」と回答があった。しかし、漢字や計算の繰り返し練習や家庭学習の定着が低く課題である。	⇒ ・子どもたちは元気に学校に行っている。 ・いろいろな機会で家庭にアピールしていく。	⇒ ・図書ボランティアの協力で図書室の利用が増えるようにし、本に親しんでほしい。															
2	豊かな心	人権教育の充実 規範意識の育成 豊かな心の育成	「ともだちの日」の取組 学校のきまりの確認・徹底 ソーシャルスキルトレーニングの活用	「ともだちの日」の振り返り。 ・仲間を大切にする気持ちが育っている。 ・学校や学級のきまりを守っている。 ・友達や家族が悲しくなるようなひどい言葉遣いをしないように気をついている。	「そう思う」児童・保護者の割合は96%(前期比+1ポイント) 「できている」児童・保護者の割合は89%(前期比+2ポイント) 「そう思う」児童・保護者の割合は90%(前期比+3ポイント)	⇒ 児童の「悲しくなるような言葉遣いをしない」項目や、保護者の「仲間を大切にする気持ちが育っている」項目で90%を超える高いポイントであった。ソーシャルスキルトレーニングを継続的に行ってきた結果、情操を育むことにつながっている。	⇒ ・自尊感情を高め自己肯定感を持たせることにより、自他を大切にする子の育成に努める。 ・人権教育を基盤とし、道徳教育を充実させて豊かな心を育む。	⇒ ・地域と連携して規範意識の向上化を図る。 ・地域全体で児童の育成にあたっていく。															
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力向上	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 生活点検表 全校マラソンの取組 部活動の推奨	・早寝・早起きをしている。 ・朝ごはんを毎朝食べている。 ・兼間マラソンの実施。 ・児童の外遊び・部活動を推進すること。	「そう思う」児童の割合は97%(前期比同ポイント) 「できている」教職員の割合は99%(前期比+19ポイント)	⇒ 教職員の「生活習慣」「体力作り」「健康面」でのポイントが大きく上がった。	⇒ ・生活点検等においても避難訓練を意識した、ハンカチの携帯率を高めたい。	⇒ ・保護者の地域行事への参加が少ないが、子どもたちが未来の地域の担い手として地域行事にも積極的に参加してほしい。															
4	独自の取組	安全教育・安全管理 小中一貫教育の推進 情報発信の充実	セーフスクール指定校 SPS認証支援校 3校合同研修会の実施 ホームページの更新	・計画的な安全教育を行い、児童自ら考え判断して安全に行動できる力を育てる。(教職員) ・小中一貫教育を推進する。(教職員) ・学校ホームページが充実する。(教職員) ・よく分かる学校・学級だよりが発行されること。	「できている」教職員の割合は100%(前期比+5ポイント) 「できている」教職員の割合は90%(前期比+30ポイント) 「できている」教職員の割合は85%(前年比同ポイント)	⇒ セーフスクールの指定を受けて3年目。安全教育の取組が認められ、SPS(セーフティ・プロモーション・スクール)の認証を受けることができた。安全を意識する児童に育った。	⇒ ・養徳スタンダード(カリキュラム・マニュアル)の更新による改善・完成を目指す。 ・地域・三校合同での安全教育の構築を行う。	⇒ ・ホームページでも安全の情報がアップされていて、子どもを安心して送り出せる。 ・セーフスクールの取組が認められSPSの認証を受けたことは喜ばしい。 ⇒ ・登下校時の防犯や安全パトロールなど子どもを見守っていくことで、挨拶もでき繋がりを強くすることになる。 ・避難所設置運営委員会と連携した避難訓練の実現化を協議していく。															

4 総括・次年度の課題

- 確かな学力の定着に向け、さらなる取組の充実を図り、教員の発問の仕方や授業構成等の改善を図っていく。
- 学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、理解を深めていただくことができた。
- 次年度に向けてアンケート項目に、学校教育目標・安全教育と関連したものを増やしていく。
- 小中9年間の教育目標の具現化に向け、小中学校で評価項目やアンケート項目を統一し、経年変化を見ていけるようにしていきたい。